

令和7年度第2回金沢市総合教育会議

日時：令和7年11月14日（金）15:30～17:00

場所：金沢市役所第二本庁舎 2201 会議室

開会

（村角都市政策局長） ただ今より令和7年度第2回金沢市総合教育会議を開催いたします。本日の司会進行を務めます都市政策局長の村角と申します。どうぞよろしく申し上げます。

本日の出席者でございますが、お手元の次第2枚目でございます名簿のとおりでございます。

では、これより次第に沿って会議を進めてまいります。はじめに村山市長から挨拶と、本日の協議題であります「休日の中学校部活動の地域移行について」の趣旨説明を併せてお願いいたします。

1. 市長挨拶

（村山市長） 皆さま、こんにちは。お疲れさまでございます。本日は大変お忙しい中をご出席いただきましてありがとうございます。

本日の議題については、昨年の第2回に引き続きということになりますけれども、「休日の中学校部活動の地域移行について」ということになります。合計で3回目かと思っております。昨年度の第2回会議についても同様のテーマで協議し、この中では大きな改革に対して非常に課題も多いという認識を共有しまして、改めてこの金沢市総合教育会議の場で認識を深めていくこととしました。

本年5月には国の「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」の答申があり、その最終取りまとめが公表されまして、今後の改革の方向性が示されるなど、検討・協議が進んでいるところであります。後ほど担当課から説明がありますけれども、今年度は文化政策課とスポーツ振興課、そして学校指導課と生涯学習課、それぞれに部活動地域移行担当を配置しました。またスポーツ振興課には運動部活動地域移行コーディネーターを新たに配置しまして、地域移行に関する調整などを行っていただいております。

今後、適切な運営のための実施体制の構築など、部活動の地域移行に向けたさまざまな課題の整理には時間がかかると思っておりますけれども、県や関係機関とも連携して着実に進めていかなければなりません。本日はモデル事業などの本市の取り組み、また先行都市の取り組み状況等についてご説明させていただき、今後に向けた議論をさせていただければと思っております。それぞれの立場から忌憚のないご意見をいただければと思っておりますので、よろしく申し上げます。

2. 休日の中学校部活動の地域移行について

（村角都市政策局長） ありがとうございます。それでは、ここから協議に移ります。まず、資料の説明をスポーツ振興課から行います。申し上げます。

（山岸スポーツ振興課長） スポーツ振興課の山岸です。どうぞよろしく申し上げます。

（以下スライド併用）

#1

まず、「休日の中学校部活動の地域移行について」という資料をご覧ください。2ページ目に次第がございます。前回2月に開催した総合教育会議以降の新たな取り組みを中心に説明させていただきたいと思います。

#2

まず国の最新の動きですけれども、国の実行会議では今年5月、最終取りまとめを公表いたしました。その概要については、前回2月の会議でも説明した中間取りまとめの内容と大きくは変わっていません。

#3

中身については4ページ以降をご覧ください。最終取りまとめにおいて変わった点といたしましたら、「地域移行」という名称が「地域展開」という名称に変更されることとなりました。その意図は、学校と地域を二項対立で捉えるのではなく、従来学校の中で運営されてきた活動を広く地域に開いて、地域全体で支えていくということがコンセプトとして掲げられております。

併せて、推進体制として都道府県がリーダーシップを発揮し、市区町村に対するきめ細かな支援を実施することが重要という明記もされました。今現在、石川県では各市町のスポーツ・文化担当課や教育委員会の担当者を集めた市町全体協議会を開催し、各市町の取り組み報告や情報交換の場を設けるなど、市町の伴走支援という立場で進めております。

#4

今後の改革の方向性ですけれども、こちらも中間取りまとめのときと変更はございません。来年度からの6年間を改革実行期間と位置付けた上で、令和8～10年度の3年間を前期とし、中間評価を経て令和11～13年度の3年間を後期としています。

改革の進め方については、平日と休日を通した活動を包括的に企画・調整することとしており、休日については、次期改革期間内に、原則全ての学校部活動において地域展開の実現を目指すこと、また平日については、さらなる改革を推進し、国において実現可能な対応策の検証を行うとともに、地方公共団体においては地域の実情に応じた取り組みを進めることとしております。

#5

この最終取りまとめを受けまして、国では具体的な地域展開の方策等を検討する調査研究協力者会議を設置しており、これまで8回開催されています。ここでは、地域展開後の地域クラブ活動の要件や認定方法、費用負担の在り方、また現在のガイドラインの見直しが検討されておりまして、新たなガイドラインは今年の冬ごろの改訂とされております。

#6

ここからは先行都市取り組み状況になります。国の資料や各市のホームページを基に、取り組みが進んでいる自治体のうち特徴的な4市を表にまとめたものです。この表の左側には民間クラブが主体となっている市、右側に行くほど自治体が主体的に関わっている市の事例になります。詳細については別途取りまとめた資料をご覧くださいと思いますが、大まかに多様な活動という側面を強調している神戸市や長野市のような方向性と、教育的意義を重視した新たな活動をつくる長岡市、また部活動を継続する方向性の熊本市のように大きく区別できると思います。

#7

これは、国が示している運営イメージに合わせて先ほどの市を分類したものとなります。市が運営事務局となって地域団体などと連携するのが①のモデルの長岡市、また民間クラブも含めて地域団体等が運営事務局となるのが②-1、②-2の神戸市や長野市のようなモデル、また学校の教育活動として部活動を残し、地域連携をするのが下の③の熊本市といえます。こうしたさまざまな先進都市のモデルの中から、金沢市にふさわしい考え方や運営の在り方を探っていく必要があると考えています。

#8

こちらからは本市の取り組みの状況です。まず部活動地域移行の推進体制として、文化スポーツ局、教育委員会の部局間の連携を強化するため、先ほど申し上げましたとおり文化政策課、スポーツ振興課、学校指導課、生涯学習課に部活動地域移行担当を配置し、現在定期的なミーティングを行い、地域移行の方向性について協議しているところであります。

また運動部活動地域移行コーディネーターを4月からスポーツ振興課に配置させていただきました。後ほどコーディネーターから活動の状況や取り組みの所感の報告がございますが、学校や競技団体に積極的に足を運んでいただき、モデル事業の実施に向けて相談の対応、連絡の調整、情報発信を精力的に行っていただいております。

#9

これは本市で部活動地域移行の在り方を検討しております検討協議会の経緯でございます。今年度令和7年度は、文化部の関係の委員も加えて拡充開催しております。年間数回程度開催しまして、モデル事業の拡充に関する協議のほか、先行都市の事例調査を行いまして、基本的な方針の検討・協議を引き続き行ってまいります。次回は国の改訂後のガイドラインを踏まえて開催する予定としております。

#10

こちらは、先ほど申し上げました部活動地域移行検討協議会で昨年度実施しました、部活動地域移行に向けたアンケート、意向調査の結果となります。その一部を抜粋させていただきました。金沢市ではスポーツ協会の加盟団体などを対象に調査を昨年度実施しました。この調査の詳細については別添資料に配布しておりますので、後ほどご覧いただきたいと思います。

結果については、部活動地域移行への関心はさまざまな団体で高い一方、実際に休日に中学生を受け入れ可能と回答した団体は、このアンケートの回答があった74団体中11団体の265人で、部員数の6,691人に対して4%にとどまる結果となりました。受け入れに伴う課題としましては、学校や地域等の関係団体の連携や協力、また活動をマネジメントする団体の中の人材確保、また指導者の確保・育成などを課題として挙げておられます。

#11

こちらが検討協議会の中で出た主な意見を取りまとめたものでございます。各委員の皆さまからは、「子どもたちの多様なニーズに応えるため、できる限り活動の選択肢を用意し情報を提供してほしい」や、「早急な考えで中学校部活動を廃止した市もあるけれども、金沢市はじっくり時間をかけて検討してほしい」という意見、「指導者の確保に向け、これからの指導者を育成す

るために学生の参画を促してはどうか」という意見や、「学校と競技団体との調整役であるコーディネーターの役割は、今後ますます重要となることから体制の充実が必要である」といった意見をいただきました。

また、「学校や地域ごとの違いはあるけれども、例えば市内をブロックに分けて、部活動の地域移行を進めていけばよいのではないか」という意見や、「モデル事業を進める中で、子どものニーズに応じて実施している長岡市の事例を参考にするとよいのではないか」という意見、「これまで部活動が培ってきた教育的意義の継承・発展をするには、これからのスポーツ・文化芸術活動に期待される役割や意義を関係者で議論し、共有していくことが必要ではないか」などの意見をいただいたところであります。

#12

また本市では今年度、モデル事業を拡充して実施しております。運動部においては新たに団体競技を2競技、学校施設を活用し、モデル事業を実施しております。

ハンドボール部は、実施団体を金沢市ハンドボール協会に委託しまして、この8月から高尾台中学校と兼六中学校でモデル事業を開始しております。実際の指導は、部活動指導員や外部コーチなど協会に所属する指導者が行っております。

またバレー部においては、金沢市バレーボール協会に委託し、同じく8月から紫錦台中学校の男子バレー部でモデル事業を開始しました。バレーボールにおいては、今後は近隣の学校の生徒の参加を呼びかけるなどの取り組みを広げていきたいと協会とも話しております。協会の指導者に指導していただくとともに、現在、金沢星稜大学のバレーボール部員など学生の方にもサポーターとして指導に参加してもらっています。

昨年度から実施している個人競技の柔道に続いて、団体競技のモデル事業を通し、課題を整理するとともに解決策を検討していきたいと思っております。

#13

こちらは文化部活動についてモデル事業を紹介しております。文化部では、吹奏楽および合唱でモデル事業を実施しております。

吹奏楽については石川県吹奏楽連盟が実施しまして、6月より高岡中学校等で同校吹奏楽部に所属する生徒を対象に月2回程度、吹奏楽連盟が推薦した指導者による指導を行っております。

また合唱につきましては、石川県合唱連盟が実施しまして、市内公民館等で野田中学校合唱部に所属する生徒を主な対象とし、他の小中学校の児童・生徒の参加も募りながら月4回程度、合唱連盟が推薦した指導者により指導を行っております。

#14

金沢市議会においても部活動地域移行についての特別委員会が設置されております。先行都市である長岡市、柏市の教育委員会から事業の説明を受けたり、熊本市教育委員会に視察を行ったりしながら、市長への提言がなされる予定とお聞きしています。

#15

引き続きまして、運動部活動地域移行コーディネーターから活動の報告をご紹介させていただきますと思います。

(布村運動部活動地域移行コーディネーター) 4月より運動部活動の地域移行コーディネーターを務めさせていただいております布村と申します。よろしくお願いいたします。

#1

「金沢市の部活動地域移行・地域展開に向けて」ということで、今年度4月より仕事をさせていただいている中で感じたことなども含めまして、簡単に説明させていただきます。

#3

現在の学校の部活動が抱えている大きな課題は二つあります。その一つは、少子化の問題です。グラフにもありますように、年齢別の人口を見ても、子どもたちの数が著しく減少してきていることが分かります。

#4

子どもの数が減少すると学校部活動にどのような影響が出てくるかということですが、まず一つは部員数の減少です。部員数の減少によってサッカー、野球、ソフトボールなど特に人数が多いチームスポーツに関しましては、チームとして成立しないという課題が生じてきます。現在は合同部活動という対応で乗り越えているのですが、さらに数の減少によって、今度はその学校からその部活動自体がなくなってしまう、廃部となっていくことが懸念されます。廃部になることによって子どもたちは自分のやりたいスポーツに取り組めなくなる、子どもたちの選択の幅が狭くなっていくということが懸念されます。これでは今後学校の部活動が子どもたちにとってより良いスポーツ環境とはならないということが一番大きな問題として挙げられております。

#5

近年5年間の各競技の生徒数をまとめたものがあります。競技によって違いはありますが、全体的に減少してきていることが分かります。特に減少の割合が大きい競技につきましては、喫緊の課題として捉えている競技もございます。

#6

もう一つの大きな課題が、教員の業務負担の問題です。皆さんご存じかと思うのですが、教員の時間外勤務時間がなかなか減らない状況の中で、教職という職業が魅力ある職業であり続けることが困難であるという見方も出てきております。特に休日の部活動につきましては、勤務ではない休日であること、それと自分の専門ではない競技の顧問を担当しているということで、教員の負担が非常に大きくなってきていると言われております。それも関係しているかと思うのですが、令和5年度の調査結果を見る限り、休日の地域クラブに関わろうと考えている教員が12%ということで、非常に少ない数になっております。ただし、部活動の教育的意義というものは非常に大きなものがあります。

#7

同じ調査の中で、小学生指導の保護者、児童に対して、中学校に行ったら部活動をしようと思っているかという問いをしたところ、部活動への所属を保護者、児童ともに多くが希望しております。そういう意味でも、小学生にとっても部活動は教育的意義も含めて大きなウエイトを占めていることが言えるのではないかと考えております。

#8

コーディネーターとして4月からたくさん仕事をさせていただきました。まずは先ほども説明がありましたモデル事業に向けてですけれども、競技団体との話し合い、顧問の先生、管理職との話し合い、それから保護者への説明会などにも参加させていただきました。

そういう中でモデル事業が推進されております。特に今年度はバレーボールとハンドボールという団体競技について実施されており、何度か練習の様子なども見学させていただいております。さらに、全国の会議、いろいろな学習の場も与えていただきまして、さまざまな他県の地域コーディネーターとの情報交換にも関わらせていただきました。大変有意義な時間となっております。そういう中で半年少し経ちましたが、コーディネーターとして感じていることを少しお話しさせていただきますと思います。

#9

まずはモデル事業の中でということ。一番の当事者になる子どもたちが何を感じているかということ。まずやはり上手になりたい。好きで始めた競技ですので、その競技が上手になりたいというのは、子どもたちの一番大きな思いではないかと思っております。それと、令和5年度の調査からもありますように、誰と活動するのかということも子どもたちにとっては大きな問題になっているようです。

競技団体ともたくさん話をさせていただきました。どの競技も自分たちの競技を、子どもたちが少なくなっていく中でこの後もたくさんの方に活動していただくような競技として盛り上げていきたいという強い思いがありまして、中学生への活動に対しても非常に前向きに参加しているところ。です。

教員についてですけれども、さまざまな業務改善の問題はあるのですが、現場の先生と話していると、やはり教員のやり方、やりがいとして部活動に対する強い思いを持っている先生方もたくさんおられます。子どもと一緒に活動し、子どもと一緒に成長したいという先生方の声もたくさんいただいております。ただ、持続可能ということを見ると、これまでは子どものためにという思いで、勤務時間を超えた活動に取り組んできた献身的な取り組み、そういう教職観といいますか、そういうものはしっかりと見直していかないと、これを良しとして大事にしていくとまた元に戻ってしまうのではないかと感じています。

保護者につきましては、保護者会にも参加させていただきましたが、特に強い反対の意見などありませんでしたので、保護者は子どもが喜んで行ってくれればいいと思っているのではないかなというふうに、保護者会を通じて感じさせられております。

#10

今後コーディネーターとして大切にしていきたいと思っていることは、まずは関係者間のつながりです。これまで中学校の部活動という限られた中で行われてきたものを、地域、協会、競技団体も含めたたくさんの方と一緒にやっていくことについては、それぞれの方々の思いや意見といったものを交換し、お互いに考えていることを共有していかないと先へは進まないと思っております。

モデル事業につきましても、3競技でやらせていただいておりますが、やっている中で感じられること、新しい発見などについては競技によってかなり違いがありますので、これについては来年度もモデル事業を拡大することで、それぞれの競技の問題をしっかりと受け止めて、その上で金沢市としての新しい地域クラブ活動をつくっていく必要があると思っております。

もう一つは、せっかく金沢というこの素晴らしいまちで新しいものをつくっていくわけですので、金沢らしいもの、金沢だからできるもの、そういうものがつくられていくといいなと思っております。単純に部活動というだけではなくて、そこからそれ以外のものが生み出せるようなものにつなげていければと思っております。

#11

「地域展開はチャンス！」と書かせていただきました。どうしようもないから何とかやらなければならないというマイナスのイメージではなくて、これを通してさらに子どもたちの選択の幅が広がったり、活動の幅が広がったり、そういういいものにつなげていくチャンスにしていかなければならないと思っております。

そういう意味では、まずは子ども第一ということで、子どもが安心して活動できる場としていかなければならないということ。それから、今回のことで学校が全く関係なくなるのではなくて、学校も地域の中の一つですので、学校と地域が一緒になって子どもを支えて育む場としていかなければならないということ。最後になりますが、繰り返しになりますが、金沢市全体の問題として、教員の業務負担の軽減というのがあるのですが、学校とは独立した場でありながら、学校ともしっかりとつながっている場であるということ念頭にしながら、現状でできることにこだわるのではなくて、さらに新しいものをつくり上げていく姿勢がこれから大事なのではないかと、6カ月間たくさんの方のお話を聞かせていただきながら、今感じていることをお話しさせていただきました。

(村角都市政策局長) ありがとうございます。ここからは各委員からご意見を頂戴したいと思っております。本日の資料の最後、16ページに本日の意見交換の論点をまとめてございます。国の動向や先行都市の取組、また本市における取組の状況、あるいはコーディネーターからのご報告等を踏まえまして、一つ目には部活動から継承すべきこと、改革すべきこと、二つ目には先行都市のモデルから見た本市の地域展開の方向性、こういったことを中心にご意見をいただければと思います。ご質問も含めましてお願いしたいと思っております。どなたからでも結構です。どうぞお願いします。櫻吉委員、お願いします。

(櫻吉教育委員) 質問をよろしいでしょうか。休日の地域移行ということになっていきますけれども、これまでは平日に参加している部活に休日も参加している形なのですが、休日移行ということになると、休日は行きたくないという子たちに関しては、そこは完全に切り離すような形になるのか、やはり平日と同じように来るのが基本という形になるのでしょうか。

(山岸スポーツ振興課長) まず学校の部活動は学校の活動の一環ということですが、休日においては地域クラブということで、活動は任意で、学校の管理下にあるのではなくて、地域クラブが主催する活動に参加するということになります。ただ、今現在モデル事業においては、休日の地域移行をなるべく円滑にするために、平日の顧問の先生などが指導されている活動を補完するような形で、休日については先生ではなくて地域の指導者の方が指導を担っていただくような形でやっている関係で、ほぼ同じ子どもさんが参加しているのが実情ではありますが、立付けとしては休日の地域クラブという活動になると、部活動とは違って子どもの任意の参加という位置付けになります。

(櫻吉教育委員) なぜそういうことを聞いたかという、普段は運動部に入っているのだけでも、文化的な活動もしたいという子も中にはいるのではないかと思います。もしくは複数種目をやりたい。野球と陸上をやりたいという子たちの選択肢。今これを見ていると当該の部活動の子が当該の部活動を休日にやる形になっているのですけれども、選択肢の幅を広げるといってお話があったのですけれども、複数種目を組み合わせてやるということも想定はされていますか。

(山岸スポーツ振興課長) 国のガイドラインにおきましても、地域クラブの活動においては新たな価値を創出するということが掲げられております。その新たな価値の例として、委員がおっしゃったような複数の種目をすることや、文化とスポーツをそれぞれ融合してやることとか、そういった多様な活動を行うことも一つ目指すところとされています。

(櫻吉教育委員) 中学生はやはり早い段階で専門種目をなるべく絞らない方がいいなと思っていて、いろいろなものを経験することが大事だと思います。中学校の部活動は生涯スポーツの本当に入り口なので、その選択肢が広いと将来いろいろなものにチャレンジできたり、スポーツは続けることがすごく大切だと僕は思っているので、それを大人になるまで続ける、そのためには選択肢が広いといいなと思うので、ぜひ複数種目を選べるようにしていただけたらと思っています。

(村角都市政策局長) ありがとうございます。山本委員、お願いします。

(山本教育委員) 先ほどの櫻吉委員と関連するのですが、現在スポーツ庁が出しているガイドラインの中で、週に2日以上以上の休養ということで、平日1日と土日の1日というのがありますよね。地域移行をする場合に時間の管理がなされないと、平日はフルでやる、もしくは5日間やって、そして休日にもやるということで、何らかの生徒の負担みたいなものが起こり得ないのかということがちょっと疑問でありまして。ただ、先ほどのご説明の中でガイドラインが改訂されるという点も関わってくるかもしれませんが、つまりそれぞれ地域の活動と学校の活動があって、トータルで時間管理をする視点というのでしょうか、一体それは誰が責任を持つのかということも含めて制度を整えておく必要があるかと思いますが、この点についてはいかがでしょうか。

(山岸スポーツ振興課長) まず今、国においては地域クラブの認定要件を議論されているところです。その認定要件の一つに、委員がおっしゃいました適切な活動時間や、休養日が設定されていることもあります。要件を備えた活動をしているクラブが、認定地域クラブとして市の認定を受けて活動していくことが議論されています。そういった視点を大切にしていかなければならないと考えています。

(山本教育委員) もう少し感想も含めてコメントさせていただきたいのですが、先ほどの時間管理のこともそうなのですけれども、いわゆる学校の教員と地域の指導者、ある程度連携というのでしょうか、そういったものも多分必要になるのだらうと思うのです。これまでの部活動のいい点はいろいろあったと思うのですけれども、例えば教員が教室で見ている生徒とは違う姿あるいは様子が部活動でできたり、あるいはいわゆる科目を教えるのとは違う指導ができるということで教育の幅が広がると思うのです。そういういいところも残しながらやっていただきたいのと、そういうことを地域指導者の方と連携しながら、例えば最近彼は、あるいは彼女は様子がおかし

いとか、そういうことが連絡を取れるような、もちろんメールなどを活用しながらやれるとよろしいのかなと思いました。

あと、本市の地域展開ということで、金沢らしい地域展開ということで、もちろんスポーツも大事なのですが、文化系の部活も今後いろいろ整えていけば面白いのではないかなと思うのです。例えば古典芸能であるとか伝統工芸、全国の中には例えば陶芸クラブが中学校にあって、窯を持っているというのがあるところも聞いたことがあるのですが、そういう何か金沢らしい技術、そういったものを何か文化系の部活で継承するとか、そういうのも今後の技術の継承も含めて大事になるのかなと思いました。

それから最後にもう一つ、地域展開をする際に、いわゆる教員ではない方が生徒の指導をするわけですが、指導者の技術の向上とか、あるいはハラスメントの防止であるとか、その辺もきちんとやっていくようなシステムというか方策が必要となるのだらうと思うのです。多分既に議論はされていると思いますが、その辺についてお教えいただければと思います。

(山岸スポーツ振興課長) 指導者につきましても、認定地域クラブの要件の一つとして適切な指導の実施体制が確保されているということが挙げられています。例えば市町村等が認める研修会を受講していることとか、研修の中身についてはハラスメントとか、実際に参加生徒同士のコミュニケーションなども含めて、適切な指導者が活動に携わることとしています。

(山本教育委員) ありがとうございます。

(村角都市政策局長) よろしいですか。長澤委員、お願いします。

(長澤教育委員) 山本委員のお話に関連するので発言させていただければと思います。まず、受け入れ可能団体のご報告の中では74団体のうち11団体、4%に過ぎないということで、ここに関して対応が必要であると思っております。まずは候補団体の中で、ぜひ受け入れていただきたいところをある程度絞り込んでいって、その上でそれぞれの候補団体の課題を調べて、その課題を克服する形で受け入れていただくよう進めることが大事だろうと思っております。その課題解決の中には、一定のお金の投入であったり、人的資源を投入していくことが必要になってくるかと思っておりますけれども、人的資源のところ、山本委員からのお話のとおり、指導者の質の問題があります。

平成25年に文科省が出した運動部活動での指導ガイドラインは、地域展開においても引き続き適用があるといわれています。運動部活動や地域スポーツクラブ活動の適切な指導・実施のためには必要だといわれているところですので、このガイドラインは引き続き参照していくことになると思っております。

受け入れ団体の方は、今まではどちらかというと、ご報告にもありましたけれども、その競技の普及であったり技術の向上という面から指導していたと思いますが、一方で指導ガイドラインに基づいて考えていくとなると、教育活動の一環になりますので、人を育てていくのだという視点が不可欠だと思います。そのような点から、今お話がありましたように研修を受けることが必要でしょうし、また先生方との情報共有、連携も不可欠になっていくのだらうと思っております。

先生方は日常的に生徒たちを見ているので、生徒さんの健康状態であったり、背景、家族構成、個々に抱えている問題を分かった上で部活動での様子を見ていくことができますが、地域で見ていく場合には必ずしもそのような情報がない中で見ていくことになります。今までは顧問の

先生方の献身的な顧問活動の中で、その先生が持っていらっしゃる属人的なノウハウを基礎として注意深く子どもたちを見守っていったのだと思うのですが、そういったことが今後はできなくなっていくのであるならば、そういう点に関してどのように情報を共有していったらいいのかというところに知恵を絞っていく必要があるだろうと思っています。

それは、コーディネーターの方々のご尽力もあるかと思いますが、属人的に負担をかけるのではなくて、システムとして適切な情報を共有できるような仕組みを考えることも重要です。法的な視点から申し上げますと、何か部活動や地域展開の活動の中で事故が起きてしまったような場合には、監督している者の注意義務違反が問題になるのですが、注意義務違反というのは、危険発生の予見可能性及び結果回避可能性があるということが前提になります。ただ、予見ができたかどうか、結果回避が可能だったかどうかというのは、監督している者の具体的な認識を前提とするため、生徒たちの健康状態や背景や習熟度など、今まで分かっていたものをいかに共有していくかということがとても大事になっていきますし、法的な責任を考えていく上でも重要になっていくと考えております。

(村角都市政策局長) ありがとうございます。丸山委員、お願いします。

(丸山教育委員) 今の話の流れと関連しているのですが、部活動から継承すべきこと、改革すべきこととして、やはり私も指導者の問題が挙げられると思います。今後、地域展開が進むにつれ、必ずその指導者のインテグリティの問題だったりハラスメントというところが恐らくクローズアップされるのではないかとということで、今おっしゃられた講習会や研修会はもちろん必要ですし、何らかの資格制度を確立することも大事なかなと思って、金沢市指導員とかそういうところで、この講習会を受けたら資格がもらえるような資格制度で統一するというのも一つなのかなと。各スポーツのスキルはそれぞれ違いますけれども、教育的配慮に基づいた指導を行うところは同じかと思しますので、そういう形で部活動で良かった点は教育的な指導だったということだと思しますので、そのあたりは継承していくべきだと思っています。

あと、持続可能なというところで、継続していくためにはやはり指導者の何らかの謝金や日当も恐らく課題にはなってくると思います。なかなかボランティアでは続けていくことができないと思いますので、そこも課題かなと思っています。

二つ目に関しては、今後の方向性ですけれども、布村さんが先ほどおっしゃった最後のところで、地域展開のチャンスというのは私もとても同意している部分であって、これをどうやってポジティブに考えていくかということ、前回のときも言わせていただいたのですけれども、やはりこれをいい機会にしていくところが必要かと思えます。

部活だったらこうだった、こうだったというのを引きずるのではなくて、やはり地域移行で、スポーツの専門的なところになるのですけれども、やはり地域で行うことで一貫指導ができるという大きなメリットもありますし、いろいろな世代と一緒にスポーツをするということで、最近では近所のおじいちゃん、おばあちゃんが子どもたちの面倒を見るという機会がすごく少なくなっていて、お隣に誰が住んでいるかもちょっと分からないような時代に、スポーツを通していろいろな世代と一緒に何かに取り組む機会はとてもいいことだと思えますし、今後ポジティブに捉えていければいいかなと思っています。

あと、金沢市として先行都市の事例が幾つかある中で、どの都市をモデルにしていくかという方向性は、どこが金沢市の特徴として一番取り組みやすいか、ポジティブに取り組んでいけるかというところは考えていったらいいかなと思います。

(村角都市政策局長) ありがとうございます。木村委員、お願いします。

(木村教育委員) 前回、これは大変難しい、なかなか一筋縄ではいかない問題だなという、課題がたくさんあるという話で終わったと思うのですが、今回、布村さんがくださったこれは大変分かりやすく、1歩も2歩も3歩も進んだように思います。地域クラブが将来全ての部活動を地域展開していくという、全てのクラブに地域クラブというか、そういうものは例えばバスケットやバレーなどがありますけれども、合唱部もありますけれども、金沢市の何とかというのは全てのクラブにありますか。受け入れ団体といますか。

(布村運動部活動地域移行コーディネーター) 新規の地域クラブの受け入れに関してはまだまだ現状ではないということです。

(木村教育委員) そうですね。それが長い目で見て、将来全ての部活にということなのですが、受け入れてくださるようなスポーツクラブというか、地域的なものでもいいので、そういうものを見つけると、指導者の人材確保にはつながるのではないかなと。今はいらしても将来の人材不足ということもあると思いますので、そういうのはその方向で行かれたらいいと思います。

私はスポーツの方はあまり分からないのですが、文化部だとすると、1人の先生に習うよりも2人の先生に習った方がいい場合もあるのです。例えば、これに取り組む姿勢が、この先生は絶対こうだとおっしゃるけれども、別の先生はこういうのもありというような、文化部に関してはそういうものがあるので、先生が代わっても基本は一緒だろうと思います。質という点では先生のスキルといますか、そういうものはある程度のレベルが必要ですが、先生が代わっても大して問題はないのではないかと思います。スポーツは分かりませんが。

それと前回、指導者が代わるが大変でないかと言っていた問題が、例えば学生さんに入っていたくというのは大変いい案だと私は思います。学生さんも教えることの勉強になりますし、すごくいいことだと思います。

(村角都市政策局長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。よろしいですか。何か言い残したことはございませんか。ありがとうございます。それでは、これまでの意見交換を踏まえまして野口教育長からご意見をいただきたいと思います。

(野口教育長) 山岸課長からお話しいただいた4ページにあるように、これまで令和5年度から3年間を改革推進期間ということで位置付けて準備が進められてきました。明年からいよいよ、新しいガイドラインを踏まえながら6年間の実行期間に入っていくこととなりますが、少なくとも3年目の令和10年度には中間評価を行わなくてはならないことになっています。

何を言いたいかというと、この地域展開を行っていくときに、いわゆる展開の工程表的なものが必要なのではないのかと考えています。例えば令和10年度までにここまで行おう、できたらここまで行けたらいいというものです。それが出来上がったとすれば、1年目は何を、2年目は何を、3年目は何を、というように毎年行うことが明確になります。最終的なゴールは全ての中学校の休日部活動を地域展開することであり、令和13年度までとなっています。そのために工程表というもので部活動の地域展開を見える化していただき、市民の方々や子どもた

ちが感じている不安を取り除いていくことが大切だと思います。工程表の策定にあたっては力を合わせながら作り上げていくことができたらいいなと思っています。

現在、モデル事業を行っています。今行っていることを二つの方向に持っていけないかと思っています。まずはもっと地域的に拡大していく、つまり、エリアで広げるか、市全体で広げていくかは別にして、とりあえず1・2の中学校から対象の学校数をさらに増やすことができないかというところに視点を当てるとというのが一つ目です。もう一つは、取り組んでいるモデル事業の数、要は競技数を増やしていくという考え方です。ここについても何か計画を作ることができたらいいなと思っています。

そういう意味で布村先生に提案していただいた、PowerPoint 5 ページ目の本市の中体連の調査を基にして、スポーツ限定になりますが、ここに挙がっている競技について、果たしてこれだけのものを全て地域展開する必要があるのかと思います。もう少しこれを整理したらいいと思います。私は科学が好きですが、科学財団において、各市内の中学生の科学部をお世話できないかと思っています。種目の整理と、モデル数を増やしていくという視点で考えたらいいと思います。いずれにしろ、展開の見える化が大切であるということをお先ほどからのご意見をお伺いしながら思っていました。

(村角都市政策局長) ありがとうございます。最後に村山市長からご発言いただきたいと思えます。

(村山市長) 地域移行に向けて先月、高岡中学校の吹奏楽部を見せてもらって、実は明日、高尾台中学校のハンドボール部を視察させていただく予定です。その中でいろいろ考えさせられるところがありますけれども、この場でも「金沢らしさ」という言葉が出てきて、学生の参画を促すというのは金沢らしいことなのかなとも思いながら聞いていました。一方で、フェローというか学生も育成されている中でどのように関与していくかというところが、サブ的な形で加えるのだったらひよっとしたらいいのかもしれないけれどもも思っているのが1点です。学生の参画というのができれば金沢らしいところにはなっていくだろうと思っているのと、教員のOBなどがどのように関わられるかというのも、教育者であったということもあるし、その部活動を教えてきたという中で密に関われる部分もあり得るのかなと思ったりしておりまして、そういったところを例えばどう組織化していくのかということ、人材バンクになっていく可能性があるというふうに思いました。

あと、野口教育長もご指摘いただいた資料2の部活動の関係ですけれども、元々の中学校での部活動が少なくなるということなので、休日になったら参加できるような他校の部活動があり得るのかどうか。自分の学校にはないけれども本当はこういう部活動をやりたいということのチャンスにつながることもあり得るかどうかということ。ひよっとしたらそれができるのであればピンチがチャンスになるところも出てくるかもしれないと思っておりました。

木村委員がおっしゃるように、指導者が代わることは文化部では結構プラスに働きます。指揮者が代わるとか。あと、例えばブラスバンドだとしたらパートごとに違う学生が教えに来るとか、それも日によって違う人が教えに来るということもできればさらに勉強になるところも出てくるかなと思ったということで、可能性はかなり広がりそうだなと思いながら、これまでの展開を聞いておりました。また明日の視察も含めて今後の議論につながればと思います。生徒数が減っていくところもあるので、部活動も取捨選択というか、その場合の人材資源の確保ができれば、そういう場になればいいかなと思っています。

閉会

（村角都市政策局長） ありがとうございます。協議は以上となります。本日いただきましたご意見あるいはご提案を参考にしながら、また生かしながら、引き続き取組を進めていきたいと思えます。

これをもちまして令和7年度第2回金沢市総合教育会議を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。